

このままいくと小金井市は、2022年頃に炭素予算を使い切る!?

炭素予算
とは？

気温上昇をあるレベルまでに抑えようとする場合に排出可能な温室効果ガスの量をCO₂換算したもの。カーボンバジェットともいう。
炭素予算の推定は、どの数値を用いるかによって上下することには留意が必要。

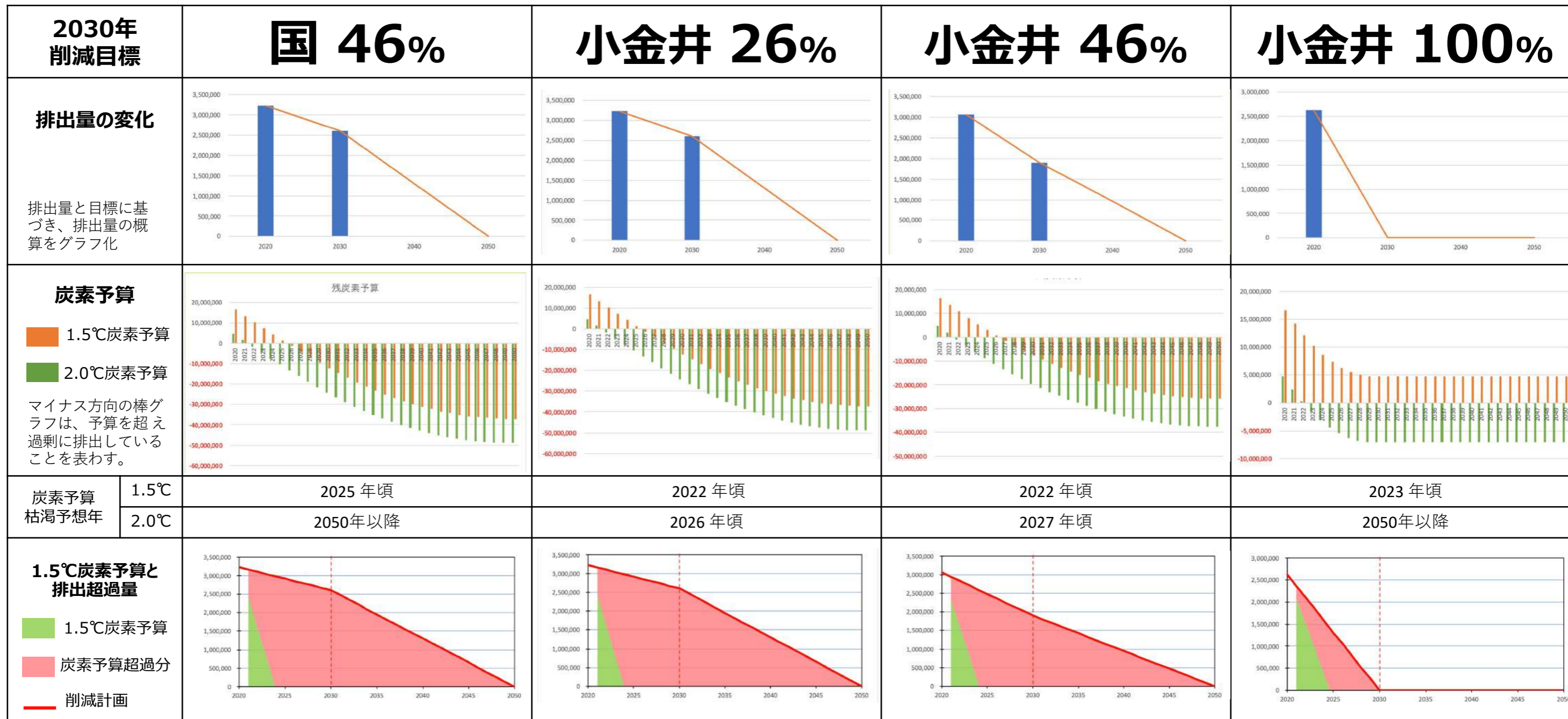
日本の※1
炭素予算

1.5℃目標で、48億トン（世界 3,000億トン）
2.0℃目標で、166億トン（世界 10,400億トン）

小金井の
炭素予算

1.5℃目標で、475万8870トン
2.0℃目標で、1,656万3,338トン

（新潟市議 中山均氏による炭素予算排出計算システムv7-5を使用）



※1 ・IPCC「1.5℃特別報告書」の概要 2018年度 環境省（2019年7月版）P49 (https://www.env.go.jp/earth/ipcc/6th/ar6_sr1.5_overview_presentation.pdf)

“地球温暖化を1.5℃に抑えるための残余炭素予算の推定値の地球温暖化を1.5℃に抑えることができる確率…66%超え”、
“表面付近の気温に基づく世界全体の平均値を用いる場合”の「約420 GtCO₂」を用いた計算
・各国の正確かつ公正な炭素予算の計算は困難なため、排出量を人口換算で計算。この手法は、国立環境研究所のレポートでも用いられている。
学術的な厳密性はないが、人口相応分の削減負担責任と削減目標の妥当性を考えるにあたって参考材料になると考える。

※ 算出に使用した値

【国】 ◆人口：1億2,557万7千人(2021年1月1日) ◆基準年(2013年)の排出量：1,408,000,000 (t) ◆直近で排出量を確認できる年(2019年)の排出量：1,213,000,000 (t)
【小金井市】 ◆人口：12万3,828人(2021年1月1日) ◆基準年(2013年)の排出量：3,521,000 (t) ◆直近で排出量を確認できる年(2017年)の排出量：3,410,000 (t)

**小金井は
2030年脱炭素で
2.0℃目標に収まる**
(厳密にいうと2030年92%削減)